

ドライバーと倉庫作業員の「多能工化」の推進などにより、労働時間を縮減！

主な取組のポイント

トラック事業者の取組

1 ドライバーと倉庫作業員の「多能工化」の推進

- ・ 以前は、各トラックドライバーは専属のトラックを運転していたことから、配送先の長短などにより、ドライバーによって労働時間に偏りが生じていた(※)。
(※)配送物により、ウイング車や平ボディ車、ユニック車などの車種が変わり、また配送先もそれぞれ変わることから、ドライバーによっては遠距離の固定配送先への配送専属のため長時間労働になることがあった。
- ・ このため、
 - ①各ドライバーが専属車両だけでなく、他車種にも乗務するようにする、
 - ②倉庫作業員が倉庫作業だけでなく一部の車両にも乗務できるよう自社内で社員の育成を行う、ことで、それまでの車両・職種を超えた多能工化を推進。
- ・ その結果、各ドライバーや倉庫作業員間での業務の平準化に繋がり、特定のドライバーに見られた長時間労働の削減にも繋がった。

2 デジタルタコグラフ導入による「日報記入の省力化」

- ・ ドライバーは運行の度に運転日報を作成するが、以前は「タコグラフチャート紙」に記録された車両の運行記録を元に、都度、荷主や配送先、着日時、総走行距離などの10項目を手書き記入していたところ、その作業に時間を取られていた。
- ・ そこでデジタルタコグラフを導入。それまで手書き記入していた10項目のうち、半分の5項目については自動記録されることになり、ドライバーの記入時間が縮減された(※)。

(※)ドライバーが帰庫した際にデジタルタコグラフのENDボタンを押下すると、会社事務所の印刷機から運転日報の様式で印刷される。ドライバーはその運転日報に、5項目を手書きで補記する。

【取組による効果】

ドライバーによる運転日報への記入作業時間が、月4時間→2時間へと短縮された！

3 現場労働者からの「ムダの提案の提出」推進

- ・ 業務の健全化や効率化のため、会社内における「ムダの提案」を労働者から募集（※）しており、提案のあった件については自社幹部により組織的に検討の上、対応策を社内回覧している。

（※）事務員は毎週1件、ドライバーや倉庫作業員は毎月1件の提出を目指して実施。

- ・ 改善実例として、取引先からB社自社倉庫へ荷の持込作業があるところ、以前は当該持込時間が遅く、持ち込まれた後に倉庫作業員が格納作業等を終了するのに一定の時間を要していたが、倉庫作業員からの「ムダの提案」をきっかけに当該最終持込時間を「15時厳守」と取引先に徹底を依頼し、取引先の協力が得られたことで、その後の倉庫作業員の作業終了時間が前倒しされ、時間外労働が縮減した。

4 書類作成等の「定型業務の自動化」推進

- ・ 定型的な書類作成作業（※1）について、以前は手作業で行っていたため、多くの時間を費やしていた。

（※1）CSV（値や項目をカンマで区切って書いたテキストファイルデータのこと。）出力されるデータのうち、一部の項目を削除後に、色分け等の編集を経てPDF変換する、というパターン化された作業。

- ・ そのため、そうした定型業務を自動化するRPAシステム（※2）を導入。当該システムを使って自動化したことで、ワンクリックでPDF変換まで自動完了することができ、従来の書類作成業務が大幅短縮した（※3）。

（※2）「ロボティック・プロセス・オートメーション」の略。これまで人間が行ってきた定型的なパソコン操作をソフトウェアのロボットにより自動化するもの。

（※3）繁忙シーズン2か月間の作業時間について、以前の手作業時は計22時間→自動化後は計2時間、と約90%削減された。

【今後に向けた検討】ドライバーの拘束時間縮減に向けた取組

- ・ 令和6年4月から改善基準告示が改正適用されることを受け、ドライバーの拘束時間縮減に向け、運行計画の見直しを検討中。一例として、東北→関東への往復長距離運行において、現在は往復長距離運行前に別の近距離圏内の運行を行っているが、当該近距離運行は別のドライバーに担ってもらうことで、長距離運行ドライバーの拘束時間を縮減することを検討。

～【検討事例】関東運行2泊3日の場合～

◆現状◆ ドライバーAさん 朝8:00出発 → 8:30荷積み → 10:00荷卸し → 13:00荷積み・長距離運行出発 → 2日目:目的地で9:10荷卸し → 13:50帰り荷の荷積み → 3日目:目的地で8:50荷卸し → 13:00翌日分の荷積み → 18:19帰庫

◆今後◆ ドライバーBさん 朝8:00出発 → 8:30荷積み → 10:00荷卸し → 10:30帰庫まで担当
ドライバーAさん 12:00出発 → 13:00荷積み・長距離運行出発 → 2日目の目的地で荷卸し～帰り荷の荷積み～3日目の目的地荷卸し～翌日分の荷積み
→ 18:19帰庫まで担当

【取組による効果】

赤字部分（近距離圏内の別配送）を別のドライバーに担ってもらうことで、ドライバーAさんの拘束時間は月約24時間縮減の見込み！